

奈良県桜井市職員 防災研修会(クロスロードと講演) 開催報告

- I 日時：令和2年1月27日(月)13時30分～16時30分
- II 場所：桜井市役所 2階 大会議室
- III 主催：桜井市危機管理課
- IV 第一部 講師：クロスロードゲーム
(ファシリテーター) NPO法人都市災害に備える技術者の会
副理事長 伊藤東洋雄
(コメンテーター) NPO法人都市災害に備える技術者の会 副理事長
(神戸防災技術者の会) 片瀬範雄
- 第二部 講師：NPO法人都市災害に備える技術者の会 理事長 山田信祐
- V 対象者：桜井市 担当職員 計44+担当者4名
- VI 第一部 クロスロードゲームの問題とコメント内容

第一問 あなたは一市役所の職員

- ・未明に震度6強の大地震が発生。
- ・辛うじて家族に怪我也無かったが、自宅は半壊状態。
- ・余震も続き、家族は心細そうにしている。
- ・電車は止まっており、歩いて出勤すると2～3時間はかかる。

あなたは出勤する？

YES(出勤する) NO(出勤しない)

第一問のコメント

- ①阪神・淡路大震災 発生の瞬間は
(極近辺発生の直下型地震の際は、数秒で耐震に劣る家屋は倒壊する、
地震速報で逃げる事など出来ない
シェークダウン訓練で命は守れない)
- ②災害時の行政の職務(桜井市地域防災計画3-4 動員基準)
(自分や家族が無事であるように備えを)
- ③1995年1月17日(阪神・淡路大震災発生)の職員の出勤状況
(地域防災計画に記載しているような全員出勤はあり得ない中で、初動期体制の在り方と、
交代制の必要性)
- ④奈良盆地東縁断層帯地震(直下型)の発生時桜井市震度及び液状化予測等
(まちの中心部の液状化に対する対応も考量した防災計画の必要性)
- ⑤熊本地震・北海道胆振東部地震—山腹崩壊
(市内には山麓部も多く、被災の可能性のあることを認識して欲しいし、
保全対策も考える必要がある)

第二問 あなたは、避難所の担当職員

- ・被災から数時間。
- ・避難所には300人がいる。
- ・現時点で確保できた食料は200食。

- ・以降の見通しは、今のところなし。

まず 200 食を配る？

YES(配る) **NO(配らない)**

第二問のコメント

①避難所の様子

(こんな混雑状態の中に入りたく無いなら、行かないで良い備えを考えて欲しい)

②避難所の課題は

(体育館を避難所とするのが当然としているが、教室にした方が地区単位の運営ができないか、教育関係者と協議をしては)

③避難所自主運営のタイプ(指定避難所のみ)

(行政が表に出ず、地域リーダータイプの方が、運営がスムーズ)

④関連死は

(阪神・東日本・熊本との比較において、前震、本震、長期避難など理由はあるが、熊本の関連死が多いのはなぜか、教訓にして欲しい)

⑤備蓄は

(家が倒壊しないことが前提

あれもこれも要求しないで、ローリング備蓄から勧めては次の段階でより充実させなければと思ってもらうように)

⑥福祉避難所の課題は？ 介護施設との協定は進んでいるが・・・

(どの自治体も安易に締結しているが、施設・人員など本当に充足できるか、出来ないと考え、近所で面倒を見ることも視野に検討しては)

第三問 あなたは、市役所の環境部長

- ・洪水から数日が経過。
- ・汚泥や流木、水に浸かった家財道具などの搬出が街中で始まっている。
- ・本来は分別集積するべきである。
- ・しかし、一日も早い復旧を始めるためには、まちなかの廃棄物の撤去が前提となる。
- ・そのような中

分別収集を呼び掛ける？

YES(呼びかける) **NO(呼びかけない)**

第三問のコメント

①被災家屋の撤去は

(当時は厚生省の補助事業で対応。現在は環境省

水害時も地震時もとりあえず分別無しで、集積を早めているのが実態

(当日に発言はしていませんが、家屋や農地に入った土砂やがれきの撤去には国土交通省の都市災害や農水省の補助制度もある)

②道路上の災害廃棄物処分は？ 道路法の規定は？

(道路上の倒壊家屋撤去は原因者の被災者が行うのが法の前提)

(当初は代執行的に行政が行った

(法の変更は無い現在、持ち主の了解のもと、行政が道路啓開しなければ、支援物資も入らない)

③震災瓦礫数量(神戸市内分)ダンプカー約400万台相当量
(場所をあらかじめ想定をしておく方が良い)

④法の取扱い

- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律(平成27年改正)一部改正時の閣議決定
- ・災害対策基本法における廃棄物処理取り扱い一部改正時閣議決定事項
(行政が強制的に集積場所の指定などの項目もある)

⑤倉敷市真備町家庭ごみ、東日本の車などの仮集積所
(写真で当時の様子を認識して欲しい
廃棄物の有効活用も視野に)

第四問 あなたは一避難所の担当職員

- ・今夜、台風が本市に最接近する予報が出ている。
- ・避難者が続々と避難をしてきている。
- ・その中に、ホームレスと思しき男性が避難してきた。
- ・住所もなく、体臭もかなりきつい。

ホームレスを受け入れる？

YES(受け入れる) **NO(受け入れない)**

第四問のコメント

①5段階大雨警戒レベル(2019年改訂)

(取扱いの言葉が毎年のように変わっているが、住民は理解しているか)

②レベル3発令でも 要援護者の避難は往々にして・・・

(正常性バイアスの排除をしないと事前避難はしない)

段ボールベッド、仮設トイレなどの手入れは？

(購入して倉庫にしまっただけでは、いざの時湿っている、風化しているなどで使えるか、日ごろの手入れを)

③佐用町の水害(2009年8月) レベル3の段階で高齢者などの避難準備を

(一律でない、土地勘の理解の啓蒙も必要)

災害という敵は一律でなく、これを知らない町民に避難ばかり言うべきでない)

④ペットの扱い？

(国は指針を出しているが、本当は地域で考えておくべき事項で、自己責任も視野に)

⑤避難所での対応事例(トラブルなど)

(知らない人がいると、トラブルも)

⑥近助も考えた地区防災計画の策定を

(小単位の地域で考えるとき、すべてが避難所に行くのではなく、日ごろのお付き合いで、災害時近所同士が助け合うことで、避難所に行かなくても良い関係を)

耐震化も進む中、隣近居の被災の無い家に当分住まわせていただける関係を)

⑦自助・近助・共助・公助

(真田の六文銭は近助の象徴であり、向こう三軒両隣の精神の復活を
阪神の時、私の家は穴だらけであったが、3月まで2軒の避難所になっていた)

⑧市議会議員対応

(神戸の時、震災当日議員総会を開き、次のことを決定
個別に職員に対する要望・要求はしない
市民の要望などは議長に集約し、一括して当局に市会としてまとめて、要望
議員は復旧・復興の予算獲得に努める

最近、災害に備え、事前に上記内容を議決している議会が増えてきている

第五問 あなたは一福祉保健部

- ・大地震から 24 時間が経過。
- ・多くの個人ボランティアが、市役所に駆けつけてくれている。
- ・しかし、ボランティアセンターを組織的に受け入れる体制が整っていない。
- ・受け入れ態勢ができるまで
ボランティアに帰ってもらう？

YES(帰ってもらう) NO(残ってもらう)

第五問のコメント

①ボランティア元年(阪神・淡路大震災時)

(当時は大学生など若者が中心、寝泊まりできる部屋の提供で、長く滞在
避難者とも心が通じる対応から、行政が言えない自立と自律を要請できる関係)

②市民による救出作業

(河田先生の推定では 35,000 人が下敷きに、うち 8 割は近所の人
被災者が被災者を助けていた)

③ボランティアに求めることは？

(力仕事か、心のケア？

(力仕事は地域の建設業者に委託、作業員も地元の人を雇用すれば、生活再建の資
金ともなる。被災者をお客さん扱いしないように)

③子供たちに夢を

(親族を亡くした子供たちの心のケアを優先)

④被災地での総合コーディネーターの必要性

(最近資格を持った人も多く駆けつけている中、総合的に指揮できるコーディネ
ーターの養成と支援要請を)

VII クロスロードゲームの『記録表』と『きょうのふりかえり』 別紙参照

VIII 第二部 防災講演 『来るべき災害に備えて』

概要 今後の(大)災害を他人事ではなく我が事として意識し、「防災・減災」に対する意
識の醸成、向上に向けて取り組んだ京都市の一つの方法を紹介。

イントロ

問題が目の前にあるにもかかわらず、誰か（当事者）が声を挙げて、始めなければ何事も始まらないことを「釜石の奇跡」の事例を援用し説明。

・釜石の奇跡（・想定を信じるな ・最善を尽くせ ・**率先避難者たれ**）

① 防災・減災への誘い（当時の私の思い）

「阪神・淡路大震災」は他人ごとではない。明日は我が身。京都が危ない。

「京都市役所の職員の意識は？これではまずいのでは」と声を挙げる。

② 災害に強い組織づくりに向けた取り組みの紹介

(1) 準備段階 当時の状況（技術職員を中心に自発的グループを形成）

(2) 第1段階 個(人)のパワーアップ

技術資格取得の勉強会から一歩進め、防災・減災WGを設立

なぜ「防災・減災」は必要か。「防災」は面白いぞと職員間で議論し仲間を拡大

(3) 第2段階 組織のパワーアップ（他局間連携など）

(4) 第3段階を目指して 組織間(自治体間)連携 防災つながりで輪を広げる

Ex. 神戸防災技術者の会（k-TEC）の支援など

写真 下記参照



危機管理監の挨拶を聞く参加者



片瀬講師によるクロスロードゲームの説明



クロスロードゲームの説明を聞く参加者



クロスロードゲームの問題を出す伊藤講師



金座布団の説明をする参加者



会場全景



問題のコメントに聞き入る参加者



解答後談笑する参加者



第二部の講演を行う山田講師



講師（左から山田、伊藤、片瀬）

クロスロードゲームの『記録表』と『きょうのふりかえり』

クロスロードゲームの『記録表』

No.	設問内容	班	YES	NO	計	No.	設問内容	班	YES	NO	計
1	あなたは出勤する？	1	6	1	7	4	ホームレスを受け入れる？	1	7	0	7
		2	7	0	7			2	6	1	7
		3	1	4	5			3	3	2	5
		4	4	1	5			4	5	0	5
		5	4	1	5			5	5	0	5
		6	3	2	5			6	5	0	5
		7	3	2	5			7	5	0	5
		8	3	2	5			8	5	0	5
		計	31	13	44			計	41	3	44
(%)	70.5	29.5	100	(%)	93.2	6.8	100				
2	まず200食を配る？	1	6	1	7	5	ボランティアに帰ってもらう？	1	3	4	7
		2	6	1	7			2	3	4	7
		3	2	3	5			3	4	1	5
		4	4	1	5			4	3	2	5
		5	4	1	5			5	2	3	5
		6	2	3	5			6	1	4	5
		7	2	3	5			7	2	3	5
		8	2	3	5			8	0	5	5
		計	28	16	44			計	18	26	44
(%)	63.6	36.4	100	(%)	40.9	59.1	100				
3	分別収集を呼びかける？	1	3	4	7						
		2	6	1	7						
		3	3	2	5						
		4	2	3	5						
		5	0	5	5						
		6	4	1	5						
		7	4	1	5						
		8	1	4	5						
		計	23	21	44						
(%)	52.3	47.7	100								

『きょうのふりかえり』(抜粋)

(1) 気づいたことは

- ・クロスロードでは色々な考えがでて悩む。悩んだ中から答えを出していくことの難しさがあり、色々な意見をまとめる力があるということを知った。
- ・防災に対する職員1人1人の考え方の違い。防災に関する知識の大切さ。
- ・判断の難しさに気付かされた。
- ・災害が起こった時は多くの難しい問題が生じてきて、それに対して判断をしなければいけないと気づいた。
- ・反対の立場の意見を沢山聞くことができ勉強になった。
- ・市職員として災害時は出勤しなければならないが、家族はどうするか等話し合ったことがなかった。
- ・様々な考え方が出てくる中での自身の考えの浅さ。
- ・自分の防災意識の薄さを実感しました。
- ・災害が起こったらどう動くのかを普段から考えておくこと。

(2) 面白かったことは

- ・YES/NOを判断する時に自身の担当業務を重視して判断している所が、本音がでていたと思った。
- ・実際の写真等を用いて各設問にコメントを頂いたこと。面白いというより興味深かった。
- ・クロスロードの問題でこんなにも回答の意見があるのだということ、答えが1つでないところ。
- ・実際に行政職員として、震災に立ち会ったときの苦勞を聞くことができたこと。
- ・思った以上に自分と違う答えが多かった。

(3) 残念に思ったことは

- ・今まで自分自身がこの様に実際の想定をして災害の対応を考えていなかった。
- ・自分の考えの狭さ。
- ・もう少しディスカッションの時間があれば。
- ・少し早足でつめこまれた感じがした。

(4) 驚いたことは

- ・パワーポイントでの写真やVTRで震災のすさまじさがよく分かった。
- ・旧の耐震基準で建てられた家屋が一瞬でくずれた動画を見て、逃げる時間が確保すらできないことに驚いた。
- ・自分1人だけ違う意見だったこと。
- ・災害のリアルな体験談。講師の方の行政の人間としての悩み、色々考える事がありました。
- ・ご紹介いただいた実際の被害状況。特に亡くなった方の人数や範囲はよく報道されるが、その後のゴミ問題やガレキ問題など知らないことが多かった。
- ・熊本地震の時に関連死が多かったことに驚いた。

(5) 自分に足りないと思ったことは

- ・大きな災害に市職員として対応したことがないので、適切な判断ができるのか不安。
- ・災害が起こったとき、それに付随してどういう問題が起こるのか、問題が起こったときどのように対処すればよいのかということに対して、知識が足りていないと思った。
- ・一面的な考え方しかできず、様々な視点から災害時の対応を想像できないと思った。
- ・災害はいつ起こるか分からないと思ってはいるものの、具体的な行動を行っていない。
- ・災害の恐ろしさは知っているが、災害に対する事前準備ができていないと感じました。
- ・行政の立場に立って災害への対策をするという意識が足りていないと思った。

(6) 学んだことは

- ・被災直後の対応→給付の対応→ボランティアへの対応→自治体間連携→復興計画、それぞれのその段階における対応は普段の備えと人材育成やコミュニケーションが大切だとわかりました。
- ・今後防災は行政の最重要課題である。自らが声を挙げ、率先して防災活動をすることが重要。
- ・近助・自主防災のリーダーシップ・連携、電話一本で「絆」「つながり」。災害時、勉強会を立ち上げる。 NPO法人、都市災害に備える技術者の会。
- ・ボランティアなど、人助けるために行動することは、災害時にとても有効である。地域のコミュニケーションを高めることも大事である。
- ・災害が起きたとき、その場で時間的余裕な無い中で答えを出していかなければいけない。→訓練が大事。
- ・災害が起きた時は瞬時の判断が求められるので色々な視点から考えることが大切と思った。議員さんの対策は参考になりました。
- ・地域のつながりがとても重要。行政がすべての事が行いう事は無理だと感じた。
- ・災害時での実際の前例を写真などで説明があり良かった。
- ・奈良県には大きな災害が起きていませんが、今後発生することが予測されている南海トラフなど、災害が起きてからではなく、起きる前から過去の事例から学び活かせるようにする必要がありますと感じた。
- ・日頃からの備えや訓練は大事であるということを再認識しました。

(7) その他考えたこと、書いておきたいことは

- ・本日はありがとうございました。この研修で学んだことを生かして今後の糧にしたいと思います。身体に十分に気をつけられ、今後でもご活躍していただきますようお願いいたします。
- ・実際に身近に起こった災害がほとんどないので、災害時にどうするか等知識だけでも身につけておくべきと思いました。
- ・避難所においては地元の組織が力を発揮すること。
- ・設問1でYESとしたが、市役所に出勤する途中において、建物の下敷きになっている状況があれば本来の職務（技術系部長）（災害対応）より、人命救助を優先するかもしれない。有意義な研修をありがとうございました。
- ・少し早口で聞き取りにくいことがあった。
- ・経験、実話を聞くことが出来て大変参考になりました。
- ・沢山のスライド等、資料をご準備いただいたおかげで、内容がとても分かりやすかったです。ありがとうございました。

- ・明確な正解がない中でも、選択して判断を迫られる状況がこのような災害の中ではたくさん出てくると思います。そのような時に、実際に大災害があった自治体はどのような対応をされたか、あらためてもっと詳しく聞いてみたいと思いました。
- ・過去の事例を用いて研修をしてくださったことが、とても分かりやすく良かったです。
- ・ゲーム形式でおもしろく参加できた。
- ・積極的に研修させる方法で、座学だけでなく良い。
- ・災害の対応や被災経験がないため、今日の研修のように日頃から「もし~になったら・・・」と考える習慣をつけておくことが大切だと改めて感じました。
- ・最後の理事長の講義、防災じゃなく人材育成とか自己啓発の話になっていて「？」って感じ。内容もちよっと古い。
- ・クロスロードで自ら参加型の研修だったのでとても理解しやすかったです。